

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	Trans R Soc Trop Med Hyg 2007; 101: 738-739	日本人のデング熱患者(28歳、女性)の血漿サンプル中 ではなく尿及び唾液中でデングウイルスを検出することに 成功した。発症後7、14および28日目の血漿検体中で抗 デングウイルス抗体は同定されたが、デングウイルス遺 伝子は検出されなかった。発症後7、8および14日目の 尿、ならびに7日目の唾液からデングウイルス1型遺伝子 が検出された。現在の研究の結果は、尿及び唾液中のデ ングウイルス遺伝子の検出が有効な診断方法、特にウイ ルス性出血の子供の診断方法になりうることを示唆して いる。
												鳥インフルエン ザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1081- 1083	高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1)を含むインフ ルエンザウイルスが、血液安全性の脅威となるおそれがある。ミニプール核酸増幅法を用いて10,272例の血液ド ナー検体を分析した。この検査法の測定感度は、一般的 インフルエンザウイルス用プライマーについては804 geq/ml、インフルエンザ(H5N1)サブタイプ特異的プライ マーでは444 geq/mlであった。インフルエンザウイルスに 対して、このようなスクリーニング検査が可能であること が示された。
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci 2007; 104: 11424- 11429	マレーシアMelakaで高熱と急性呼吸器疾患に罹っていた 39歳男性から未知のOreovirusが分離され、Melaka virusと 名づけられた。患者の家族も発症したが、彼らは発症前 にコウモリと接触していた。遺伝子配列分析により、同ウ イルスは同国Tromau島のフルーツコウモリから分離され たPulauウイルスと近縁であることが示された。同島住民 は109例中14例(13%)が同ウイルスに陽性であった。 Orthoreovirusがヒトの急性呼吸器疾患と関係があること が初めて示された。
												ウエストナイル ウイルス	The New York Times 2007年7月 26日	米国におけるウエストナイルウイルス症例数は1年前の約 4倍であり、大流行がおこる可能性があるとの政府研究者が 報告している。昨年は米国で4,269症例が報告され、この 中には1,495例の脳症が含まれ、177人が死亡した。今年 はこれまで122症例が報告され、カリフォルニア州と南北 ダコタ州で最も多いが、昨年の同時期は33例のみであっ た。今年は既に脳症が42例および死亡が3例ある。